



第96図 「中世的」陥し穴の分布

②縄文早期以後に段丘端部の縁に沿う配列、③縄文中期初頭Ⅱで尾根頂部を縦断しつつ、分岐するなど①より複雑な配列、以上3つの様相が確認される。配列は単純→複雑へと変化している。Ⅲ類の陥し穴の埋没により本遺跡は狩猟域の機能が停止し、集落域が形成されたと推測される。

5 「中世的」陥し穴について

原村の南平遺跡では坑底ピット内出土の炭化材を用いて放射性炭素年代測定(AMS法)が実施され、「中世」に比定される結果が算出されている(古環境1998)。この陥し穴は長楕円形を呈し、短軸方向が極めて狭いもので、底部の逆茂木は打ち込みにより付設されていた。かかる形状と逆茂木の埋設方法が、「中世」の陥し穴の特徴として指摘された(桜井1998)。馬捨場遺跡でも上記の形状を示し、かつ打ち込み方法で逆茂木を埋設したと理解される陥し穴(SK41、SK201、SK274)が確認されたが、中世の遺物や覆土・底坑ピット内からの炭化物出土はなく、残念ながら遺物や放射性炭素年代測定で中世に帰属する証明が不可能であった。そこで、上記の属性をもつ陥し穴は「中世」に帰属するものとの前提条件で、最近の発掘例から「中世的」陥し穴を抽出し、その分布などを考えることとする。

現在、茅野市や原村では圃場整備事業に伴う大規模な発掘調査が実施されており、陥し穴の調査例も蓄積されている。特に、茅野市では上の平遺跡(米沢)、梵天原遺跡(泉野)、上見遺跡(泉野)、師岡平遺跡(豊平)、久保御堂遺跡(豊平)、原村では白ヶ原遺跡(柏木)で多数の陥し穴が確認されており、段丘面や尾根上を横断もしくは縦断する配列が認められている。これらは出土遺物、他遺構との重複、周辺の歴史的環境などから縄文時代に属する陥し穴であるが、なかには「中世的」陥し穴を確認することができ、その遺跡を示したものが第96図である(註4)。これを見ると南八ヶ岳の火山麓扇状地でも、茅野市南部から原村一帯の広範囲に分布していることが判明する。分布を仔細に見ると、東西方向は標高930~1,000m、南北方向は柳川以南の馬捨場遺跡が北限である。南側は原村芝原尾根遺跡よりさらに南方にも存在する可能性はあるが、富士見町以南の様相が把握できていないため南限は不明である。

南八ヶ岳の裾野に中世的の陥し穴が分布するこの状況は、諏訪神社との密接な関係が指摘できる(註5)。延文元年(1356)に諏訪円忠が著した『諏方大明神画詞』には、「神野(御狩野)」の言葉が登場する。五月会や御射山祭などの諏訪社の祭礼では、それに先立って生費としての鹿の狩猟(御狩)が行われており、「神野(御狩野)」はその狩猟域であった。『諏訪郡諸村並旧蹟年代記』には、「惣名原山地大境、東は獄山(八ヶ岳)迄、南は高場川迄、北は柳川境、西ハ宮川ワ境(カッコ内は筆者註)と「神野」の範囲が記載されている。この範囲と「中世的」陥し穴の分布を見ると、南平遺跡と宮川の間に調査例が認められないものの、両者はほぼ一致していることが判明する。『諏方大明神画詞』の5月2日の御狩押立神事では、鹿を追い出してこれを射ることと、矢にあたる鹿が少ないことから「諏訪野」という場所には鹿穴があったと古老が伝えていた記述が認められる。陥し穴の規模・形状と狩猟対象物との関係については、現時点でも不明な点が多いことから、鹿穴=「中世的」陥し穴とは短絡的に結び付けられないまでも、「中世的」陥し穴は諏訪社の祭礼に伴い鹿を狩猟した施設の可能性が高いことが指摘できる。

註

- 1 詳細な規模・形状が不明で、坑底ピットが確認されていないSK256は対象外とした。
- 2 ここでは、逆茂木の埋設方法を桜井氏が用いた呼称(「埋めこみ方法」・「打ち込み方法」)を用いる。
- 3 Ⅲ類としたSK274は、「埋めこみ方法」で逆茂木を埋設するものであり、その点で「中世的」陥し穴に該当させて良いかは判断できない。
- 4 茅野市については報告書から抽出した。原村については報告書からの抽出と原村教育委員会平一治氏の教示による。
- 5 中世的の陥し穴が諏訪神社と関係する指摘は、桜井秀雄氏から教示されたことである。

参考文献

- 信濃教育会諏訪部会(宮地直一著)1937『諏訪史』第2巻 純編(諏訪神社の研究)
 諏訪史研究会1961『諏訪史談要項』22 茅野市泉野編
 信濃史料刊行会1971『諏訪大明神園阿』『新編信濃史料叢書』第3巻 P89
 諏訪教育会1983『諏訪郡諸村の田園年代記』『復刻諏訪史料叢書』第3巻
 原村1985『原村誌』上巻
 諏訪市史編纂委員会1995『諏訪市史』上巻 原始・古代・中世
 古環境研究所1998『原村、南平遺跡における放射性炭素年代測定』『南平遺跡』原村教育委員会
 桜井秀雄1998『南平遺跡にみられる二種の陥し穴』『南平遺跡』原村教育委員会
 桜井秀雄2000『原村、南平遺跡にみられる陥し穴の年代—中世後半—近世初頭頃の陥し穴—』『信濃』第52巻 第10号

第4節 縄文中期初頭の土器について

ここでは馬捨場遺跡から出土した中期初頭(五領ヶ台Ⅱ式)の土器の中から、器形が分かる深鉢について、分類を試みることにする。分類は地文で大別し、口縁部、頸部、胴部、底部の各部位に施文された文様で細別することとした。

I群・縄文を地文とするものである。ここで対象とした土器の大半が属する。胴部に単節縄文施文のもの、単節縄文を施した後に結び目縄文を施文したものとがあるが、ここでは一括することとする。

a類・器形は円筒形の胴部の上にキャリバー状に内湾する口縁部がつくものである。SB03(42-28、43-34)、SB04(45-72、45-73)、SK272(64-122)から出土している。SB03出土土器は、28が覆土下層、34が覆土中～上層出土土器である。

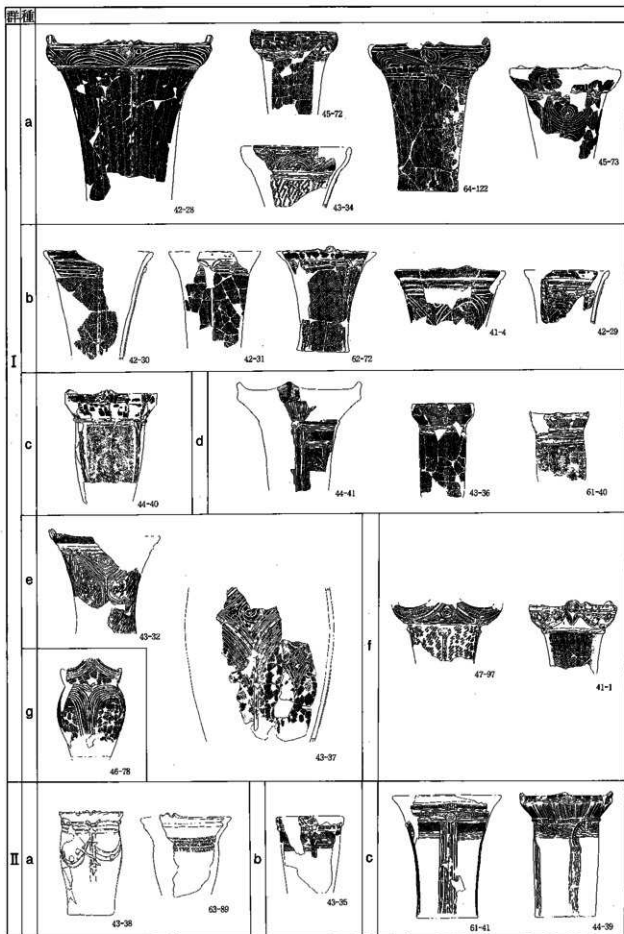
口唇部は基本的に平坦で、文様は口縁部に数本の沈線を弧状に施し、そのなかに渦巻き文もしくは三角形の刻み文を施す。弧状沈線と渦巻き文の最上部に刺突を施す。口唇部は基本的に平坦であるが、渦巻き文上部に突起がある。胴部では渦巻き文直下に上部がY字状をなす隆帯もしくは集合する数本の沈線があり、胴部はそれにより区画(4区画)されている。区画内部は単節縄文を施した後に結び目縄文を施文したもの(42-28、43-34、45-72、64-122)と、縄文を施した後に弧状の沈線を数本施文したものとがある。

b類・胴部の文様はa類と同じであるが、頸部に数本の平行する沈線を施すものをb類とした。SB01(41-4)、SB03(42-29、42-30、42-31)、SK112(45-72)から出土している。SB03出土土器は覆土上層から出土したものである。

a類と同様、胴部の区画内部は単節縄文を施した後に結び目縄文を施文したもの(42-30、42-31、62-72)と、縄文を施した後に弧状の沈線を数本施文したものとがある。

c類・器形は円筒形の胴部の上にくの字形に内折する口縁部を有するものである。SB03(44-40)の覆土上層から出土したものである。

口縁部は屈曲部に境に横に平行沈線を施す上部と縄文を施文する下部とに分かれる。頸部にはV字状の隆帯が貼り付けられ、胴部はそこより垂下する平行沈線で区画するが、沈線と口唇部の突起の横位置が一致しない。区画内部には単節縄文が施文されている。施文後に口縁部から胴下半にかけて結び目縄文が施されている。



第97図 縄文時代中期初頭の土器群

- d類・円筒形の胴部に縄文を施文し、口縁部に縦の集合沈線を施すものである。SB03 (43-36、44-41)、SK46 (61-40) から出土している。SB03出土土器は、36が覆土下層、41が覆土の中層～上層から出土したものである。

この類は口縁端部に渦巻き状もしくはU字状に隆帯を貼り付け、波状口縁のものがある。口縁部がくの字形に内折するものと外反傾向のものがあり、前者は横に隆帯と沈線を施している。ここでは口縁部に集合沈線を施すものとして一括した。また頸部に横の平行沈線と連続刺突を施すものがある。

- e類・胴部上半は隆帯とそれに平行する沈線で三角形の区画をつくり、内部に渦巻き文を施したものである。胴部中～下半は縄文を施文する。SB03 (43-32、43-37) の覆土上層を中心に出土したものである。

口唇部には連続する刻み目をつけ、突起を付けている。

- f類・円筒形の胴部の上にやや内湾する口縁部がつくものである。SB01 (41-1)、SB05 (47-97) から出土しており、両方とも炉体土器である。

胴部に縄文を施文するが、隆帯で区画(4区画)したものと区画しないものがある。前者は波状口縁の頂部と隆帯の横位置が一致する。後者(41-1)は縄文施文後に結び目縄文を施すものである。この類の特徴は、口縁部に隆帯で三角形の区画をつくっていることで、区画内部に渦巻き文と三叉文を刻む。

- g類・器形は胴部が大きく内湾し波状口縁となるものである。SB04 (46-78) から出土している。

文様は、胴部にU字状に平行沈線を刻み、内部に単節縄文を施文する。U字の交差部分の頸部にV字状の隆帯を貼り付けている。口縁部には波状に平行する平行沈線を刻み、その下部に縄文を施文する。

II群・沈線文を地文とするものである。

- a類・器形は胴部がやや内湾傾向で、口縁部が外反する。SB03 (43-38)、SK210 (63-89) から出土しており、前者は覆土中～上層から出土したものである。

口縁に突起がある。頸上部には横方向に平行沈線を刻み、4箇所V字状の隆帯を貼り付けている。胴部は隆帯から垂下する平行沈線で区画(4区画)されている。区画内部は弧状の沈線を数本刻む。口縁の突起とV字状隆帯の横位置は一致する。

- b類・器形は胴部がやや外反もしくは円筒形で、口縁部はほぼ垂直もしくは外反するものである。SB03 (43-35) の覆土中～上層から出土したものである。

頸部に横方向の平行沈線と連続刺突を刻む。胴部は縦の集合沈線で区画(4区画)され、上部はさらに横方向の平行沈線で区画され、内部に斜行する集合沈線が刻まれる。胴中～下半は無文である。

- c類・器形は円筒形の胴部の上にくの字形に内折する口縁部を有するもので、器形はI群d類と同様である。SB03 (44-39)、SK46 (61-41) から出土しており、前者は覆土上層から出土したものである。

口縁部の文様は、横方向の平行沈線と刺突を刻む上部と、縦の集合沈線を刻む下部とに分かれる。胴部は上部に横方向の集合沈線を施し、それと交差する数本の縦の集合沈線で区画する(4区画)。II類b種同様、胴部の上部を区画した内部に斜行する集合沈線が刻まれる。胴中～下半は無文である。

以上、2大別10細分された。各種土器の出土遺構を見ると、同一遺構から異なる種別のものが出土している。SB03は人為的に埋めたとされるローム主体層（無遺物層）を境に出土土器が上層と下層に分かれる傾向があり、28、30、36がローム堆積以前の遺物、ほかは堆積後の遺物と判断される。SB03について出土層位と今回の分類との関係を見ると、上層出土土器はⅠ類fを除く他の種別に認められるが、下層遺物はⅠ類a、b、c種にまとまる傾向を見て取ることができよう。各種別に編年の位置を与えられるか否かは疑問であるが、今村氏の編年（今村1985）に照合すると、ここで対象とした土器は五領ヶ台Ⅱb～Ⅱc式に該当し、Ⅰ群d種、Ⅱ群b、c種がⅡb式、Ⅰ群a、b、e、f種がⅡc式に当てることが出来るよう。

参考文献

今村啓爾1985「五領ヶ台式土器の編年—その細分および東北地方との関係を中心に—」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第4号

第9章 結語

馬捨場遺跡は平成12年度と平成13年度初頭の2年にわたり発掘調査が行われ、ここに報告書を刊行することができた。今回の発掘調査では、標高の点から予想しなかった縄文中期初頭の集落や、ローム層に良好に遺存していた旧石器時代の遺物など、当初の予想をはるかに上回る資料を得ることができた。標高1,100mに立地する遺跡からは、八ヶ岳や甲斐駒ヶ岳、北アルプスなどの山脈が手にとるように見渡せ、馬捨場遺跡に暮らした人々は、遺跡を取り巻くこの良好な景観を眺めていたものと思われる。

発掘、整理担当者として、これらの資料をどれ程報告書に盛り込めたか、不安が残る。さらに周辺遺跡との関わりについて殆ど触れることができなかった点で、本遺跡の評価や地域における位置付けが不十分となり、大きな課題を残す結果となったことは否めない。ここで時代別に主な成果をまとめて結語とした。

旧石器時代

茅野市内では昭和30年代に発掘された渋川遺跡や御小屋ノ久保遺跡、近年の発掘では夕立遺跡と上見遺跡で槍先形尖頭器やナイフ形石器などの資料が得られている。しかし、石器集中地点（ブロック）と地形との関連が把握された例は少なく、この点で馬捨場遺跡の石器は該期の遺跡立地を考える上で貴重な資料となろう。さらに、黒曜石蛍光X線分析では諏訪エリア、蓼科エリア、和田エリアの黒曜石が検出され、最も近い産地である蓼科の黒曜石が多用されていないこと、主な石器は諏訪エリアの黒曜石が用いられていることが判明した。信州産黒曜石を考える上でひとつの資料提示になると思われる。

縄文時代

今回、縄文草創期末～後期にいたる資料が得られ、調査対象地が時期を異にして利用されていたことが明らかとなった。

縄文草創期末に比定される表裏縄文土器が3点確認された。該期の遺構は確認されなかったが、市内で類例が皆無なため貴重な資料となろう。

縄文早期では、柳川を望む段丘端部に縄文早期中葉（押形文、細久保式期）に比定される土坑や、条痕文土器、沈線文土器が出土した早期後半の陥し穴の存在が判明した。該期の遺構は平成13年度調査でその存在が明らかとなったもので、遺構配置から現在団地が造成されている段丘端部一帯に展開しているものと思われる。本遺跡周辺では類例がなく、今後柳川上流域における該期の遺跡立地などを考える上で良好な資料となると思われる。

縄文時代中期では、中期初頭（五領ヶ台Ⅱ式）に限定された集落が段丘上の尾根状地形を中心に複数の居住域と貯蔵穴域で構成される様相が把握された。諏訪地域における類例として岡谷市船登社遺跡、茅野市稗田頭C遺跡などがあるが、今回、中期初頭の良好な資料を提示できたと思われる。中期後半では、堅穴住居が1軒検出された。該期の遺構は堅穴住居1軒のみで、集落構成は不明である。床面付近から出土した頸部に沈線を施す深鉢（曾利Ⅱ式）は遺跡周辺では類例が認められず、その位置付けは今後の課題となろう。

縄文時代後期では、斜面で土坑が検出された。該期の遺構・遺物は、段丘上では確認されず斜面部に限

定される状況は、最近の発掘で認められた該期の斜面部利用に該当するものと思われる。

中世以降

馬捨場遺跡でも最近調査例が増加している該期の陥し穴に比定される遺構が確認された。出土遺物や放射性炭素年代測定による年代的な裏付けは不可能であったが、遺構の属性から該期に帰属するものと判断される。かかる陥し穴が柳川以南の南八ヶ岳の裾野に分布することが判明し、文献史料などから諏訪社の祭礼に伴い生贄として捧げた鹿を狩猟した場所と推定できた。本遺跡周辺の中世史を解明する興味深い資料となると思われる。

以上のように多岐にわたる資料が得られた。馬捨場遺跡の事業は本書の刊行をもって終了することとなる。しかし、本当の意味で終了したといえるのは、本報告書が評価を受けた段階と思っている。最後に、発掘調査から報告書刊行にいたるまで協力いただいた関係各位、諸団体、に深い感謝を表し、本書及び諸資料が地域史を解明する上で活用されることを念願したい。

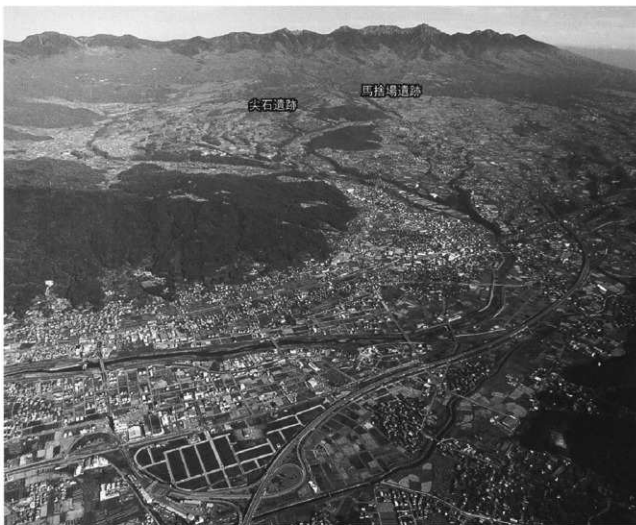
縄文土器掲載遺物一覧表

図版番号	写真 図版 番号	出土遺物 種別	部 種	部 位	時 期 等	備 考	図版 番号	写真 図版 番号	出土遺物 種 類	部 種	部 位	時 期 等	備 考
61-49		SK54	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		64-108		SK243	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	
61-50		SK54	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		64-109		SK246	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
61-51		SK56	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		64-110		SK246	深鉢	底部	中期初Ⅱ	
61-52		SK66	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		64-111	33-30	SK259	深鉢	口縁部付近	中期初Ⅱ	
61-53		SK66	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		64-112		SK263	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	
61-54		SK68	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		64-113		SK253	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
61-55		SK68	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		64-114		SK262	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
61-56		SK71	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		64-115		SK262	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
61-57		SK74	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		64-116		SK262	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
61-58		SK83	深鉢	底部	中期初Ⅱ		64-117		SK253	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
61-59		SK86	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		64-118		SK255	深鉢	底部	中期初Ⅱ	
61-60		SK89	深鉢	口縁部付近	中期初Ⅱ		64-119		SK259	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
61-61		SK96	深鉢	胴部	前期末～中期初Ⅱ		64-120		SK260	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-62		SK100	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		64-121		SK267	深鉢	胴部	前期末～中期初Ⅱ	
62-63		SK100	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		64-122	33-26	SK272	深鉢	口縁～底部	中期初Ⅱ	SK122に遺物同装合
62-64		SK100	深鉢	底部	中期初Ⅱ		65-123		SK270	深鉢	口縁部付近	東海系	
62-65		SK103	深鉢	胴部	東海系		65-124		SK271	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-66		SK103	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		65-125		SK275	深鉢	口縁～胴部	中期初Ⅱ	
62-67		SK106	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		65-126		SK281	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	
62-68		SK107	深鉢	胴部	東海系		65-127		SK282	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	
62-69		SK107	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		65-128		SK294	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-70		SK110	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		65-129		SK296	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	
62-71		SK110	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		65-130		SK296	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	
62-72	33-26	SK112	深鉢	口縁～底部	中期初Ⅱ		65-131		SK289	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	
62-73		SK113	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		65-132		SK297	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	
62-74		SK113	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		65-133		SK298	深鉢	口縁～胴部	中期初Ⅱ	
62-75		SK113	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	SK102に遺物同装合	65-134		SK306	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-76		SK113	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		65-135		SK307	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
61-47		SK49	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		65-136		SK303	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-77		SK114	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		65-137		SK305	深鉢	胴部	前期末	
62-78		SK114	深鉢	口縁部	前期末		65-138		SK306	深鉢	胴部	前期末	
62-79		SK114	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		65-139		SK318	深鉢	胴部	前期末～中期初Ⅱ	
62-80		SK125	深鉢	胴部	前期末～中期初Ⅱ		64-140		SK318	深鉢	胴部	前期末～中期初Ⅱ	
62-81		SK133	深鉢	底部付近	中期初Ⅱ		74-1		SK19	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ	
62-82		SK204	深鉢	口縁部	東海系		74-2		SK19	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-83		SK205	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		74-3		SK41	深鉢	底部	東海系	
62-84		SK205	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		74-4		SK41	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-85		SK213	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		74-5		SK64	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-86		SK220	深鉢	口縁部	東海系		74-6		SK129	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-87		SK220	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		74-7		SK274	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
62-88		SK220	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		74-8		SK274	深鉢	胴部	中期初Ⅱ	
63-89	33-27	SK210	深鉢	口縁～胴部	中期初Ⅱ		75-1		図説306	深鉢	縄文早期		
63-90		SK210	深鉢	口縁部	東海系		75-2		図説306	深鉢	縄文早期		
63-91	33-31	SK210	深鉢	口縁～胴部	中期初Ⅱ		75-3		図説306	深鉢	縄文早期		
63-92		SK210	深鉢	胴部～底部	中期初Ⅱ		75-4		図説306	深鉢	底部	縄文早期	
63-93	33-29	SK210	深鉢	胴部～底部	中期初Ⅱ		75-5		図説306	深鉢	胴部	縄文早期	
63-94	33-32	SK218	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		75-6		図説306	深鉢	胴部	縄文早期	
63-95		SK221	深鉢	胴部～底部	中期初Ⅱ		75-7		図説306	深鉢	胴部	縄文早期	
63-96		SK224	深鉢	胴部	前期末		75-8		図説306	深鉢	胴部	縄文早期	
63-97		SK228	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		75-9		図説306	深鉢	胴部	縄文早期	
63-98		SK232	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		75-10		図説306	深鉢	胴部	縄文前期末	
63-99		SK239	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		75-11		図説306	深鉢	胴部	縄文中期初Ⅱ	
63-100		SK239	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		75-12		図説306	深鉢	胴部	縄文前期末	
63-101		SK239	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		75-13		図説306	深鉢	胴部	縄文中期初Ⅱ	
63-102		SK235	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ		75-14		図説306	深鉢	東海系		
63-103		SK235	深鉢	胴部	中期初Ⅱ		75-15		図説306	深鉢	胴部	縄文中期初Ⅱ	
64-104		SK240	深鉢	口縁部	中期初Ⅱ								
64-105		SK240	深鉢	胴部	中期初Ⅱ								
64-106		SK240	深鉢	胴部	東海系								
64-107		SK241	深鉢	底部	中期初Ⅱ								

土製品一覧

図版番号	写真 図版 番号	出土場所	分類	直径 (mm)	壁厚 (mm)	重量 (g)	色調 (内/外)	備 考
81-1	35-1	SB02	土製円盤	56	12	42.6	褐色/褐色	深鉢の胴部を転用。割れ口を磨っている。片面に平行沈線と縄文刻線の施文。
81-2	35-2	SB03	土製円盤	56	11	40.5	明赤褐色/褐色	深鉢の底部を転用。割れ口を磨っている。
81-3	35-3	SB03	土製円盤	54	13	36.2	土に近い褐色/灰褐色	深鉢の底部を土製円盤に転用。割れ口を磨っている。
81-4	35-4	SB03	土製円盤	35	7	9.9	明赤褐色/土に近い赤褐色	深鉢の底部を転用。割れ口を磨り磨いている。片面に沈線残る。
81-5	35-5	SK273	土製円盤	37	10	13.1	明褐色/暗赤褐色	深鉢の胴部を転用。割れ口を磨っている。片面に隆帯と縄文刻線の施文。割れ口一部欠損。
81-6	35-6	①区検出西	土製円盤	44	10	23.7	黒褐～暗褐色/黒色	深鉢の胴部を転用。割れ口を磨っている。片面に縄文刻線の施文。内側に黒色付着物あり。

写真図版



遺跡遠景
 (諏訪IC付近上空より)
 茅野市立永明中学校
 提供



調査区遠景
 段丘上：①、②区
 段丘端部：③区



平成12年度
調査区全景



平成13年度
調査区全景



左：①区 調査前風景
右：③区 調査前風景



左：①区 検出風景
右：③区 調査風景



左：①区 基本土層
(断面B)
右：同拡大
(IIa~IIIb層)



左：③区 基本土層
(断面D)
右：①区 谷部土層
断面(断面A)





第1地点
第11号ブロック
遺物出土状況



左：第3号ブロック
調査風景
右：槍先形尖頭器
(図版番号2)
出土状況



第1地点
ブロック調査風景



第2地点
第15号ブロック
遺物出土状況



第3地点
第17号、18号ブロック
遺物出土状況



第3地点
第19号、20号ブロック
遺物出土状況



左：第19号ブロック
槍先形尖頭器
（図版番号57）
出土状況

右：第17号、18号ブ
ロック調査風景



左：第19号、20号
ブロック調査
風景

右：テフラ分析用
試料採取風景
（断面B）



SB02、03附近全景



左：SB01完掘

右：SB01埋觉伊



左：SB01碎体土器

右：SB02完掘





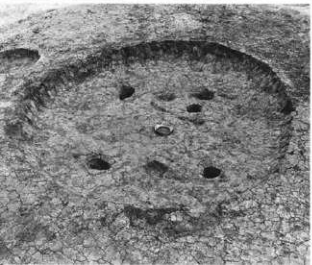
左：SB03完掘
右：SB03遺物出土
状況



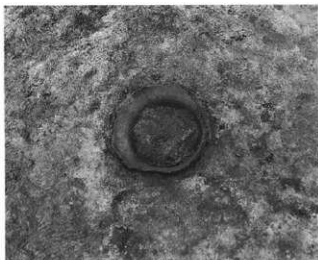
左：SB03遺物出土
状況（拡大）
右：SB03断面



左：SB04完掘
右：SB04遺物出土
状況



左：SB05完掘
右：SB05調査風景



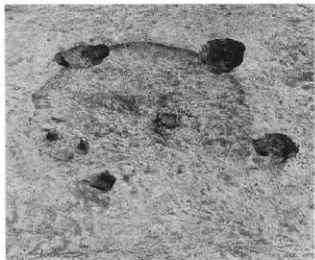
左：SB05埋鏡伊
右：SB05护体土器



左：SB06完掘
右：SB06
遺物出土状況

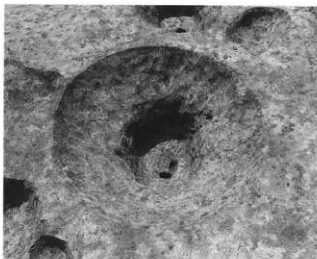
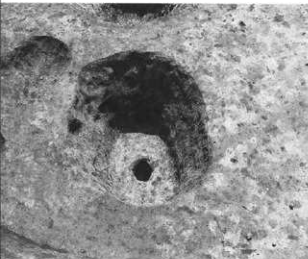


左：SB06遺物出土状
況(図版番号104)
右：SB07完掘



左：SB08(左)
SB09(右)完掘
右：SB08押型文土器
出土状況(拡大)





左：SK01完掘
右：SK02完掘



左：SK03完掘
右：SK04完掘



左：SK05完掘
右：SK06完掘



左：SK06
坑底ビット断面
右：SK06
坑底ビット完掘
(近接)



左：SK07完掘
右：SK07坑底ビット
断面



左：SK08完掘
右：SK15完掘



左：SK16完掘
右：SK19完掘



左：SK22、25、30、
31、40、120完掘
右：SK25焼土、炭化
物出土状況





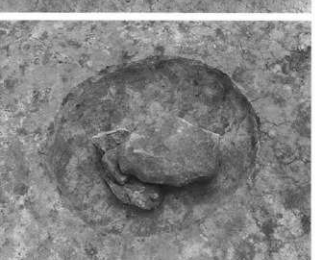
左：SK41完掘
右：SK41調査風景



左：SK45完掘
右：SK46完掘



左：SK46
遺物出土状況
右：同拡大



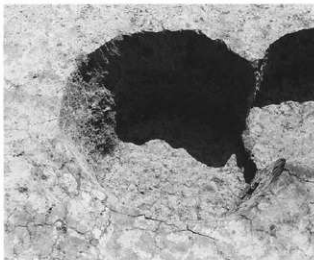
左：SK50完掘
右：SK56
遺物出土状況



左：SK120標、焼土、
炭化物出土状況
右：同拡大



左：SK27完掘
右：SK31、40完掘

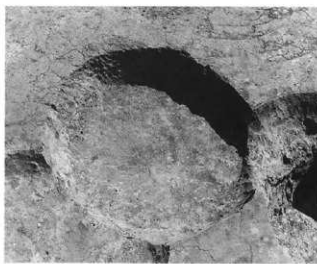
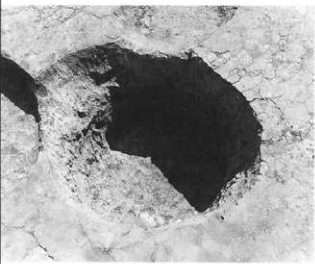


左：SK64完掘
右：SK64
坑底ビット断面



左：SK67完掘
右：SK69、89、90完掘





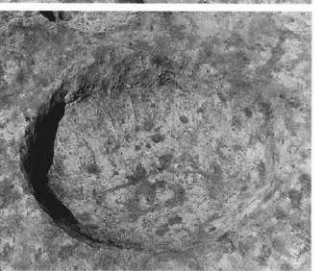
左：SK80完掘
右：SK83完掘



左：SK91、92完掘
右：SK91 (陥し穴)
たち割り風景



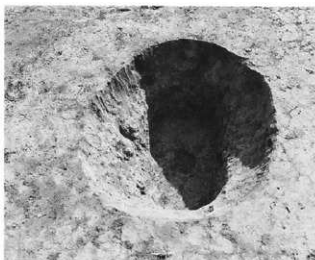
左：SK96完掘
右：SK96
坑底ビット断面



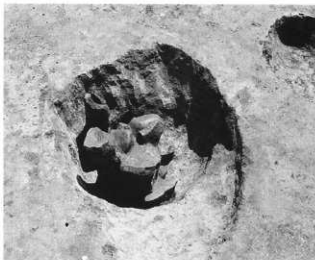
左：SK100完掘
右：SK101完掘



左：SK104完掘
右：SK105完掘



左：SK112
遺物出土状況
右：SK115
礫出土状況



左：SK117断面
右：SK122完掘



左：SK96
坑底ピット完掘
右：SK123完掘





左：SKI24完掘
右：SKI26完掘



左：SKI26
坑底ビット断面
右：SKI27
焼土出土状況



左：SKI129、130完掘
右：SKI129
坑底ビット断面



左：SKI129
坑底ビット完掘
右：SKI130
坑底ビット断面



左：SK132完掘
右：SK201完掘



左：SK201断面
右：SK201
坑底ビット完掘



左：SK202完掘
右：SK209完掘



左：SK202
坑底ビット断面

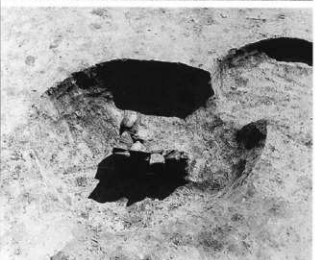




左：SK210
遺物出土状況
右：SK211完掘



左：SK217完掘
右：SK218
遺物出土状況



左：SK220
遺物出土状況
右：SK223完掘



左：SK223
坑底ピット完掘
右：SK234
裸出土状況

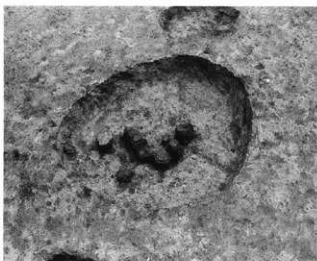
左：SK236完掘
右：SK229完掘



左：SK236断面(拡大)
右：SK250
遺物出土状況



左：SK239
遺物出土状況
右：SK274完掘



左：SK272
遺物出土状況





左：SK275
土器出土状況
右：SK291、292完掘



左：SK293
罫出土状況
右：SK312完掘



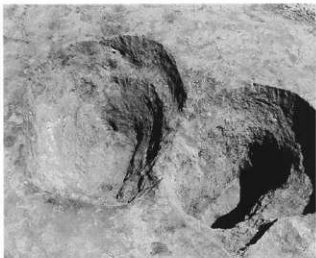
左：SK313完掘



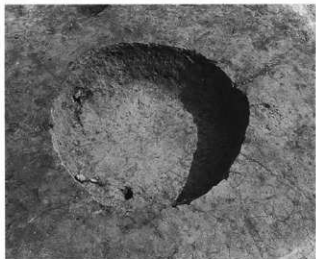
左：SK276完掘
右：SK314完掘



左：SK401完掘
右：SK402、403完掘



左：SK404、405完掘
右：SK406完掘



左：SK407完掘
右：SK408完掘

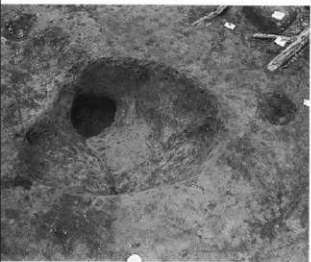


左：SK408
坑底ビット断面
右：SK409完掘





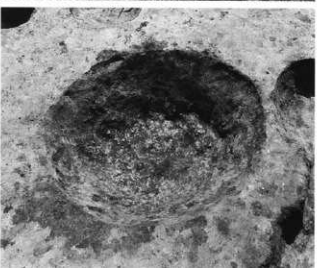
左：SK412完掘
右：SK410完掘



左：SK411完掘
右：SK416完掘



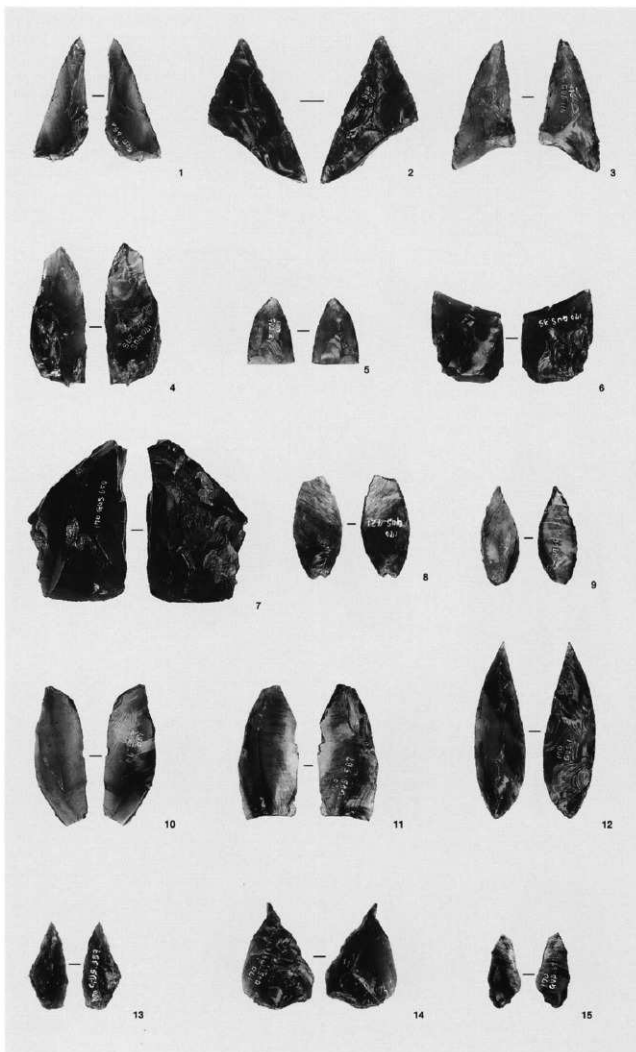
左：SK417完掘
右：SK418完掘



左：SH01
礫出土状況
右：SH01完掘

1~15

第1地点出土





16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



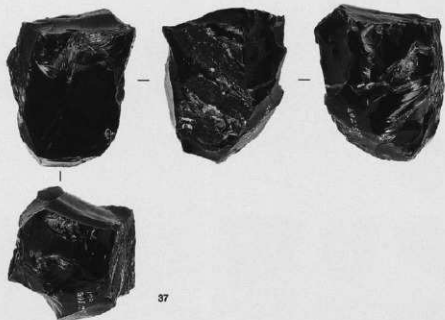
35

36~38

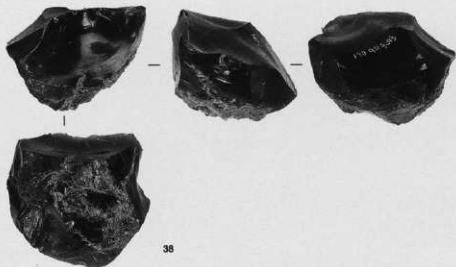
第1地点出土



36



37



38

39-41
第1地点出土
42-48
第2地点出土



39



40



41



42



43



44



45



46



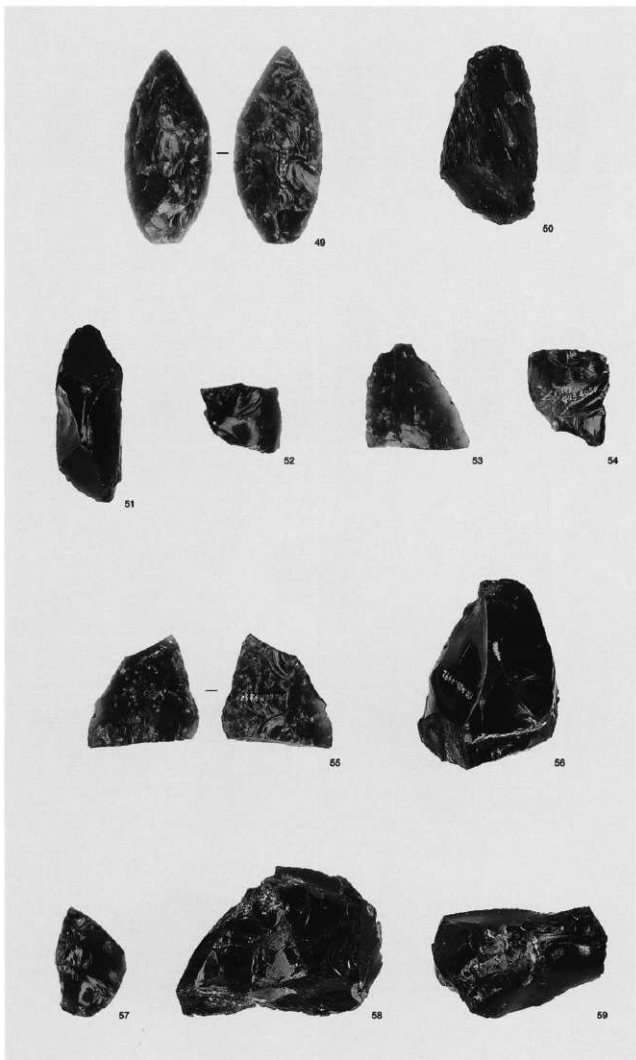
47



48

49～59

第3地点出土



60~63

第1地点出土

64、68

第2地点出土

65~67、69~72

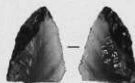
第3地点出土



60



61



62



63



64



65



66



67



68



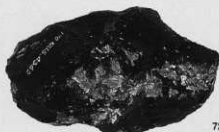
69



70



71



72

押型文土器

- 1 SB08
- 2 SB08
- 3 SB08
- 4 SB08
- 5 SB08
- 6 SB08
- 7 SB08
- 8 SB08
- 9 ③区北斜面
- 10 SB09
- 19 ③区北斜面
- 21 ③区北斜面

条痕文土器

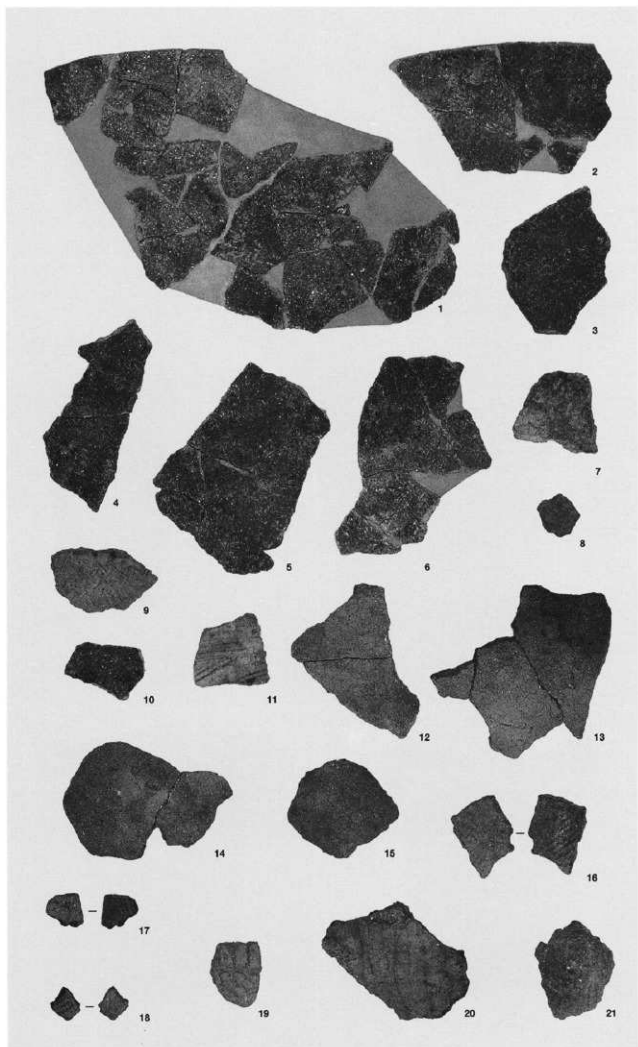
- 11 SK408
- 12 SK412
- 13 SK409
- 14 SK409
- 15 SK409

表裏縄文土器

- 16 ②区検出面
- 17 ②区検出面
- 18 ②区検出面

柘木式土器

- 20 ③区Ⅱb層



- 1 SB01 炉体土器
- 2 SB01
- 3 SB03
- 4 SB03
- 5 SB03
- 6 SB03



1



2



3



4

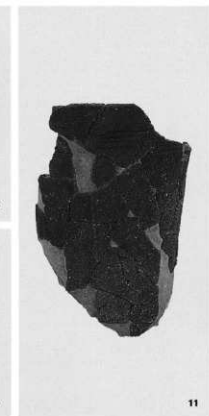


5



6

- 7 SB03
- 8 SB03
- 9 SB03
- 10 SB03
- 11 SB03
- 12 SB03
- 13 SB03
- 14 SB03
- 15 SB04





16



17



18



19



20



21



23



22

- 16 SB04
- 17 SB04
- 18 SB04
- 19 SB04
- 20 SB04
- 21 SB04
- 22 SB06が体土器
- 23 SB06

- 24 SK112
- 25 SK272
- 26 SK45
- 27 SK210
- 28 SK46
- 29 SK210
- 30 SK250
- 31 SK210
- 32 SK218



24



25



26



27



28



29



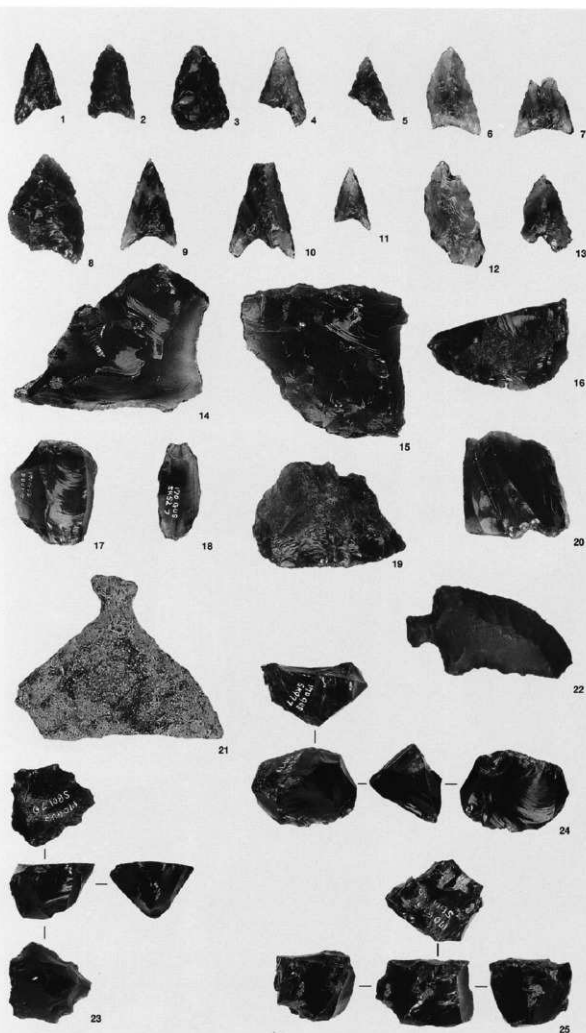
30



31



32



石鏃

- 1 SB01
- 2 SB02
- 3 SB02
- 4 SB09
- 5 SK403
- 6 SK409
- 7 SK409
- 8 SK409
- 9 SK411
- 10 ①区表採
- 11 ③区検出面
- 12 ③区検出面
- 13 ③区攪乱

削器

- 14 SB09
- 15 SB03
- 16 SK240
- 19 SK202

楔形石器

- 17 SB01
- 18 SK52
- 20 SK110

石器

- 21 ②区南検出面
- 22 SB01

石核

- 23 SB01
- 24 SK97
- 25 SB01